

# 処理水2回目 10月5日開始

## 東電が発表

東京電力福島第一原発の処理水の2回目の海洋放出について、東電は28

日、10月3日に準備作業に入り、同5日に放出を始める」と発表した。1回目(8月24日)〜今月11日)と同様に、タンクにためた水約7800トンを約17日間かけて海に流す。

2回目に向け、すでに希釈前の水を東電と民間の分析機関、日本原子力研究開発機構がそれぞれ測定した。いずれの結果も、原子力規制委員会が認可した計画で定める放射能セシウムなど29種の放射性物質の濃度が法令基準を下回ったという。

東電によると、10月3日にタンクの水約1トンを海水約1200トで希釈して水槽に入れ、トリチウム濃度を測定する。1トあたり1500ベクレル未満であることを確認でき

れば、同5日から放出を始めるという。

処理水の放出が8月下旬に始まって以降、海水

や魚のトリチウム濃度の測定で異常は確認されていない。

東電は、原発3号機以内の海水のトリチウム濃度を週1回から毎日に変化。8月31日に放水口から約200メートル離れた海水で1トあたり10ベクレル値が出たが、そのほかは検出限界値(同約10ベクレル)

未満。処理水の放出停止判断レベル(同7000ベクレル)を大きく下回る。

水産庁も放水口の南北数キロで、今月25日までにヒラメやマダイなど50検体の魚のトリチウム濃度を測定。いずれも検出限界値(1トあたり約10ベクレル)を下回っている。

(福地慶太郎、佐々木凌)